

路線バスの維持確保に向けた取組支援



- 「滋賀地域交通ビジョン」で描く「誰もが、行きたいときに、行きたいところへ移動ができる、持続可能な地域交通」の実現に向け、地域交通ネットワークの重要な構成要素である路線バスの充実を目指す。

【提案・要望先】国土交通省

1. 提案・要望内容

(1) 路線バスの運転士確保に向けた支援の拡充

- 2024 年問題で極めて深刻な状況に陥っているバス運転士不足の解消が図られるよう、労働環境の改善、運転士の育成等に対する支援を拡充すること

(2) 路線バスの運行継続支援の強化

- 「地域間幹線系統補助」および「地域内フィーダー系統補助」における標準単価を上げ、県内実勢単価との差の解消を図ること

2. 提案・要望の理由

(1) 路線バスの運転士確保に向けた支援の拡充

- 地域交通は、利用者の移動手段に留まらず、福祉、教育、観光、企業誘致、さらには CO₂ ネットゼロ社会の実現など社会を支える土台であり地域にとって欠かすことのできない重要な社会インフラ。
- 路線バスは、極めて深刻な運転士不足から、近年、全国的に運行本数の減便や、路線の廃止が続いており、地域交通ネットワークの崩壊が懸念。

(2) 路線バスの運行継続支援の強化

- 県、市町において、バス事業者と連携し、路線の再編、運行支援、利用促進等に取組んでいるところであるが、財政状況が厳しい中で大きな負担。
- 国で講じていただいている運転士確保や運行継続に向けた支援策について、路線バスの全国的に極めて厳しい状況に鑑み、補助対象事業の拡充や補助額の増加、実情に合った補助運行経費の算出等により、維持対策の大幅な強化が必要。

(本県の取組状況と課題)

【滋賀地域交通ビジョンの策定】

令和6年3月「滋賀地域交通ビジョン」策定

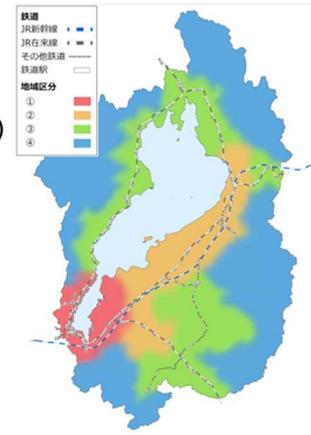
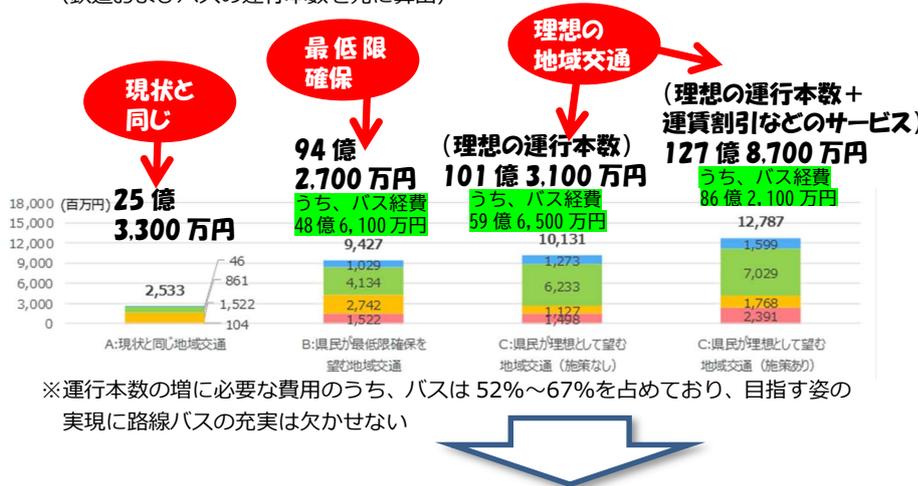
2040年代を見据えた目指す地域交通の姿

「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる、持続可能な地域交通」

■ 3パターンの目指す姿に応じた費用を試算

(鉄道およびバスの運行本数を元に算出)

■ 4つの地域分類イメージを設定



※運行本数の増に必要な費用のうち、バスは52%~67%を占めており、目指す姿の実現に路線バスの充実は欠かせない

令和6年度から、ビジョンの実現に向け、具体的な施策や、施策実施に必要な財源のあり方について、交通税も選択肢に、県民、企業、交通事業者、市町とともに議論し、「滋賀地域交通計画」として取りまとめる。

(1) 路線バスの運転士確保に向けた支援の拡充

◇県内民間バス路線における減便・廃線数の推移

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	6カ年計
減便	3	10	20	14	19	29	95
廃止	1	7	6	1	0	2	17

◇バス運転士確保に向けた県の支援

バス生産性向上・運転士確保事業 [令和6年度 10,200千円]

バスの運行維持に必要な運転士を確保するため、生産性の向上および労働環境の改善に取り組むバス事業者を支援。

【対象経費】

- ・多様な人材の確保に向けた広報・研修等に要する経費
- ・乗合バスの利用促進や利便性向上に要する経費 等

→県内運転士不足解消のため、R6から新たに支援

(2) 路線バスの運行継続支援の強化

◇地方バス対策にかかる県市町負担の推移



◇地域間幹線系統補助における

県内実勢単価と北近畿ブロック単価の乖離

比較単価 (R5)	キロ当たり単価
滋賀県 実勢単価 (主要3社平均)	545.22 (円/km)
北近畿ブロック標準単価	411.60 (円/km)
〔滋賀・京都府(京都市内のぞく)等〕	
京阪神ブロック標準単価 (大阪・京都市内等)	552.61 (円/km)

→支援の基準となる標準単価が、実態と大きく乖離しており、実情に合った支援ができていない

担当：土木交通部交通戦略課
TEL 077-528-3681